

エクスプローラー・オブ・ザ・シーズのギリシア諸島クルーズ乗船記(1)

2025.8.12 池田良穂

イタリアのベニスから列車を乗り継いで3時間ほどで、アドリア海に面した港町ラベンナに到着しました。同港は工業港としては有数の港町ですが、客船の受入体制は現在も建設過程で、地中海のクルーズハブ港としての地位を失ったベニスに代わる港としての整備が進んでいます。今回乗船したロイヤル・カリビアン・インターナショナル(以下RCI)も、14万総トンの「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」と「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」の2隻を同港発着の定点定期クルーズに配船しており、ベニス発着クルーズとして売っています。千葉にあるディズニーが東京ディズニーと銘打っているのや、イタリアのチビタベッキア港がローマ港とも銘打っているのと同じく、近隣の有名な地名を活用して集客のための知名度向上に努めているのでしょうか。

先のニュースでもお伝えしたように、同港のクルーズ岸壁は陸地を彫り込んだような細長い港の先端の平行した防波堤の内側に造られており、着岸できるのは2隻だけで、ターミナルビルはまだ建設中でした。このクルーズ岸壁にはラベンナの鉄道駅からはタクシーで30分ほどかかり、料金は50ユーロ、約8000円でした。公共交通機関もないということで、下船後については、自分で手配をするか、船会社が用意したバスの利用が推奨されていました。最も近いラベンナ駅、ポローニアの鉄道駅と飛行場、ベニスへのバスも有料で用意されており、私たちもポローニアまでのバスを船上でさっそく予約をしました。この予約はスマホのRCIのアプリから簡単にできました。

乗船のチケットもスマホアプリに送られてきて、オンラインチェックインしておくと、現地でのチェックインはパスポートのスキャンだけで、CIQもなく、すぐに乗船ができました。多分、これまでの外航クルーズの乗船体験の中では、最もシンプルなものでした。オンラインチェックインで顔写真の事前登録もしてあったので、港での撮影はありませんでした。

土曜の夕刻、16時半に「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」は後進で岸壁を離れ、防波堤に挟まれた港内で回頭して、舳先をアドリア海へと向けました。港の近くには白いビーチが長く伸びており、たくさんの海水浴客が楽しんでいました。

さて、乗船した「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」は、ロイヤル・カリビアンが14万総トン級を唄って華々しく登場させた「ボイジャー級」の1隻で、旅客定員は4000人余り。2000年の竣工ですので、すでに船齢は25年に達しています。数年前に大規模改装していますが、細かく見ると老齢化は否めません。同社は、ボイジャー級5隻を建造後、その拡大型の「フリーダム級」、22万総トン

の「オアシス級」と、17万総トン級の「クアンタム級」の連続建造に入りますが、「ボイジャー級」もまだ中核船隊として活躍しています。

さて、地中海はいくつかの海に別れています。イタリア半島と、旧ユーゴスラビアおよびギリシアに挟まれた水域はアドリア海と呼ばれしており、ラベンナを出港した船は同海を20ノットで南下しました。時々、RORO貨物船やコンテナ船と反航しました。天気はよく、海もベタ凪で、サンデッキは人で溢れており、カリブのリズムが賑やかに奏でられていました。夏休みの時期とあって、子供の数も多いへん多く、特にサンデッキのプールサイドは賑やかでした。満船状態が続いているようで、欧洲のクルーズも絶好調のようです。2日目は一日航海日で、13時と15時にはスタジオBでアイスショーがあり、日本人の女性スケーターも2人出演していました。

夕食はマイタイム・ダイニングとしており、19時15分から21時半までの間なら、いつ行っても空いているテーブルに案内されるというシステムを選んでおきました。このシステムの欠点は、テーブルが決まるまでにレストランの入口でテーブルが決まるまで結構時間がかかることと、毎回、テーブルのサービスをするウェイターが変わるので、船員さんとの濃厚な関係が築けないことです。ただ、ファーストシーティングは早すぎて、筆者はシップウォッ칭を楽しみたい時間帯なのと、セカンド・シーティングは遅すぎて時差ボケの頭がついていけないことがあり、マイタイム・ダイニングのシステムは筆者にとっては嬉しいシステムで、RCI船ではいつも選択しています。

この日の夜のドレスコードは、フォーマルとなっていましたが、夕食時に女性のドレス姿は多かつたのですが、男性でネクタイをしているのは20%くらい、タキシードを着ていた人には1人しか遭遇しませんでした。 次回は、エーゲ海の島巡りの様子をレポートします。



船上からラベンナ港の景観です。細い水路のようなラベンナ港の入口近くにクルーズ客船岸壁が造られていました。



出港時に撮影したクルーズ客船岸壁。現在は2隻が着岸できますが、まだ拡張の余地はあります。現在は2つの仮設テントで受付やスーツケースの受取等を行っていますが、ターミナルビルの建設が始まっています。



港の外側には綺麗なビーチが続いていました。



出港すると沖には海底油田開発の櫓が点在していました。



LNG の積出をする施設には、大型の LNG 船が荷役中でした。



ラベンナ港に向かう RORO 貨物船「ユーロカーゴ・バレンシア」と反航しました。

2日目 終日航海日



2日目は、イタリア半島に沿ってアドリア海を南下しました。やや霧っていて出会った船の写真も鮮明には取れませんでした。グリマルディの大型 RORO 貨物船「エコマルタ」です。



昼にはアイスショーが 2 回ありました。





夕食後には、シアターでプロダクションショーがありました。